

新習志野に運動場完成

野球場

フットサルコート

テニスコート



ソフトボールの始球式



学生寮と緑のコート



寮をバックに記念撮影

こけら落としにソフトボール戦
新習志野キャンパスの学生寮わきに野球場、テニスコート4面、フットサルコート2面の運動施設が完成。東京湾に近く、青空が広がる野球場で2月10日、こけら落とし戦として4会学生・寮生チーム対職員野球部のソフトボール試合が行われた。

同日正午、瀬戸熊修理長が始球式のボールを投げ、学生チーム先攻で試合開始。わずか3回戦だったが、職員野球部が9点を決めて圧勝。苦戦する学生チームから「ドンマイ」と大きな声が上がリ、新球場に終始、歓声が響いた。

年間を通し、快適に体を動かせる場が広がったことで、大学生生活の充実が期待される。これらの運動施設は、4月から一般学生に供用を開始。用具も貸し出す。利用申し込み、詳細は新習志野学生課まで。

本更津高専と連携協定

本学へ学生受け入れや研究交流

本学は、本更津工業高等専門学校と「包括的な連携に関する協定」を結び、2月24日、小宮一仁学長と写真左と前野一夫校長と「同右」が出席して締結式を行った。

本更津高専は昭和42年創立。機械、電気電子、電子制御など5年制の準学士課程5学科と、機械

工学系研究教育環境の充実のほか、国際交流にも力を入れており、工業英語への積極的な取り組みをベースに、台湾やシンガポール、マレーシ



ア、ドイツなどと交流を深めている。

今回の連携はこのような本更津高専側の教育理念と、本学が進めている最先端技術開発やグローバル化推進などの理念の方向性が一致していると認識をもち、これからの日本社会の中核を支える工科系人材に求められる共通した資質の向上、国際社会に通用する人材の育成に力を合わせて当たっていくというものである。

提携の主な内容は▽学生の受け入れ▽教職員、研究者および学生の交流▽共同研究▽研究施設、設備の相互利用▽研究資

料、刊行物および研究情報の交換▽社会貢献活動など。

本更津高専では卒業生の進学志向も高まっており、準学士課程卒業生の25%が4年制大学に編入学。専攻科卒業生の33%が大学院に進んでいる（いずれも平成25年度）。

小宮学長は「本学には大学院も研究機関もあるので、優秀な高専卒業生の進路にもなると思う」と話している。

「ひまわり保育園」開園

千葉銀と共同 理事長らテープカット

桃の節句の3月3日、津田沼キャンパス4号館2階に完成した「千葉工大ひまわり保育園」の開園式が行われた。本学と千葉銀行が共同の事業所内保育所として開設準備を進めてきたもの。大勢の関係者が見守るなかで、瀬戸熊修理長と千葉銀行の佐久間英利頭取、運営実務に当たる（株）ポピンズの中村紀子・代表取締役CEOがテープカットし開園を祝った。



テープカットする(左から)瀬戸熊理事長、佐久間頭取、中村CEO

この保育園は、教職員推進のために、学内保育の「仕事と家庭の両立」所の開設を検討してきた。本学と、同様に女性の活躍支援に積極的に取り組んでいる千葉銀行のニーズが一致して開設が決まった。ポピンズは130カ所を超える認可・東

京都認証保育所を運営しているが、大学と銀行が保育所を共同運営するのは全国で珍しいという。

本学では近年、女性教員が増えており、女性職員の一層の活用も求められている。子供を安心して預けられる施設がキャンパス内にあることは、政府の次世代育成支援対策に沿ったことにもなる。

一方、学生から見れば、キャンパス内を保育士に連れられて散歩する幼児の姿などを目にする中で、子育てへの関心を高めたり、自分の専門と幼児教育との関わりを考えたりする契機になる

開園式後には、内覧会が行われ、淡い色調の乳児室や保育室など乳幼児のための心配りが行き届いた清潔な施設に、感嘆の声が上がっていた。

この日の開園式には、3月から正式に入園した4人の乳幼児とお母さん（本学1組、千葉銀行3組）のほかには体験入園の5組の母子が出席。それぞれに瀬戸熊理事長と佐久間頭取が記念品を贈った。利用者からは、「近くに施設があり安心する」「大学なのでセキュリティも高い」との声があがった。

来場40万人達成

タウンキャンパス

東京スカイツリータウンキャンパス（東京都墨田区押上・ソラマチ8階）が2月11日、来場40万人を達成した。

40万人目は、江戸川区平井から来た加藤千博君（小学3年）。お母さん

と2人で散策がてらソラマチへ足を踏み入れ、8階に上って「魅力的な施設」を発見したという。記念品贈呈式で、瀬戸熊修理長から40万人目の記念プレート、宇宙飛行士が使用する宇宙ペ



バックを手渡された「写真家は瀬戸熊理事長と加藤君母子」。

ロボットも宇宙も大好き！という千博君は、館内で係員の説明を受けアトラクションを体験。5時からの映画を最後に、2時間以上も館内で過ごし、親子とも「迫力があつた！」と喜びの声を残して館を後にした。

ニュースガイド

- 2面 宮本君「意匠コン」入賞／藤本さん奨励賞／熊谷さん学生優秀発表賞／石川さん最優秀賞
- 3面 27年度本学志願者数／卒論で3組4人が優秀賞／荒井上席研究員が講演／知財財定また全国1位／教員採用試験対策講座
- 4面 R&D PM研究会／千秋上席研究員「はやぶさ2」を語る／サーテック2015
- 5面 デザイン科学科卒業展・学外展／第4回花いっぱいIN習志野台／定年退職者
- 6面 定年退職者（続き）

宮本君の意匠コンク入賞

■多面体の回転式パズルをデザイン

立方体の面をひねって色を合わせる回転式パズル玩具はよく知られているが、宮本圭佑君（機械サイエンス学科4年・手嶋吉法研究室）は、球に近い形の回転式パズルをデザインして「平成26年度デザインパレントコンテスト」（文部科学省、特許庁、日本弁理士会、工業所有権情報・研修館が共催）に応募。入賞作（支援対象）として1月26日、東京・霞が関のイノホールで表彰された。



表彰される宮本君(右)

熊谷さん学生優秀発表賞

■妨害音の到来方向と作業しにくさの関係

音環境情報の処理を研究する熊谷直登さん（電気電子情報工學専攻修士2年・飯田一博研究室）が、日本音響学会の第10回（2014年秋季）研究発表会（昨年9月3～5日、札幌市の北海学園大豊平キャンパスで開催）で「妨害音の到来方向およびタスクの種類が作業のしにくさに及ぼす影響」を口頭発表。学生優秀発表賞に決まり3月17日、東京都文京区の中央大後楽園キャンパスで行われた授賞式で表彰された。

同コンテストは今回で7回目。今年度は31件が支援対象に選ばれた。特典として、弁理士が特許庁への出願から意匠権取得までをサポートしてくれる。



音響室で熊谷さん

Dを用いて実験した結果、妨害音が前や右から到来すると作業がしにくくなる傾向をつかんだ。さらに実験環境を実オフィスに近づけ、単語音声の不規則ノイズ（妨害音）の中で、被験者に単語の向きを再確認

した。実験には飯田研の熊谷さんら3人に、鹿島技研から2人が参加した。発表に当たり、熊谷さんはスライドを簡潔に、落ち着いて説明するよう心がけたという。3300件を超す学生口頭発表中、優秀発表賞20件のうち選ばれた。

熊谷さんは受賞の感想を「光栄です。ご指導くださった飯田先生や鹿島技研の方々に深く感謝します」と語った。

藤本さん奨励賞

■「お手伝いキッチン」提案

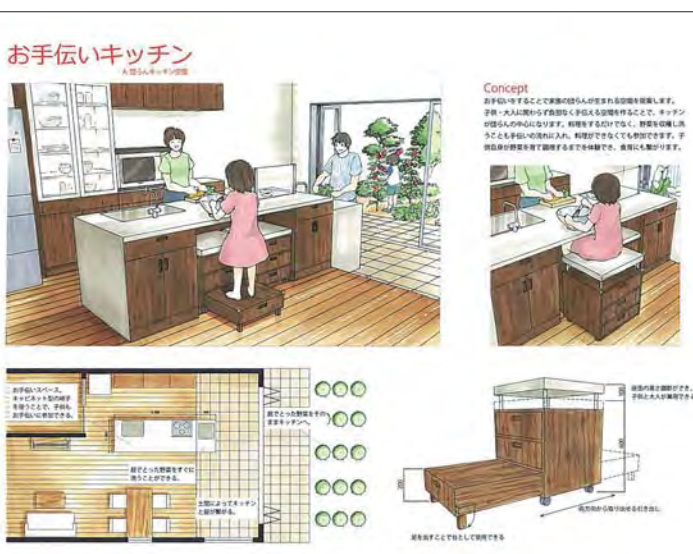
公益社団法人インテリア産業協会主催の平成26年度キッチン空間アイデアコンテストで、藤本もも子さん（デザイン科学科3年・白石光昭研究室）が、募集テーマのうち「団らんキッチン空間」を選んで「お手伝いキッチン」を提案し、奨励賞を受賞。1月19日、東京都新宿区の京王プラザホテルで行われた授賞式で表彰された。



藤本もも子さん

誰もが負担なくキッチンを使えるよう配置などに配慮。キャビネットを兼ねた椅子は、座面の高さを調節できる。両方向から使える引き出しの下段は、小さい子どもの踏み台にもなる。

「子どもと大人が併用できるようにしたかったので、寸法を決めるのに苦労しました」という。パース（立体完成予想図）の着色は、質感が感じられるよう工夫した。藤本さんは「苦労した点が多かったので受賞できてよかった」と喜んだ。



石川さん最優秀賞

■「迫る期日」へ危機感促す「渦巻き」装置

産業技術大学院大学（AITU）石島辰太郎学長、本部・東京都品川区東大井）が新製品につながるデザインを募集した第8回デザインコンテストで、石川和也さん（デザイン科学専攻修士10年・佐藤弘喜研究室）が最優秀賞を獲得。2月26日、東京・天王洲のクリスタルヨットクラブのクラブハウスで行われた表彰式で、審査委員長

の石川和也さんが、島学長から表彰状を授与された。今年度のテーマは「回転」。石川さんは掛け時計のように壁に掛ける、渦巻き形のシンプルな装置「Mind CYCLONE」を提案した。

試験日や、提出物の締め切り。日常に

は期日に迫られることがよくある。石川さんの装置は、期日までの時間を可視化し、焦りや危機感から、やる気を誘い出すもの。

「締め切りまであと〇日（時間）！」——渦巻きの「テーマ決め」「コン

テストまで」と話した。産技大は首都大学東京が設置する専門職大学院。未来のデザインプロフェッショナルを育成しようと2008年からコンテストを開いている。



石川さんと作品説明(部分)



産技大は首都大学東京が設置する専門職大学院。未来のデザインプロフェッショナルを育成しようと2008年からコンテストを開いている。

7年連続増、5万2600人

平成27年度
本学志願者

B日程入学試験が2月17、18日の2日間、また、大学入試センター利用入学試験（中期・本学試験なし）、3月5日午前C日程入学試験、同日午後大学入試センター利用入学試験（後期）が行われ、本学の平成27年度入学試験が全て終了した。

B日程入試の志願者は9254人（昨年度より1910人増）。大学入

試センター利用入試（中期）には2406人（昨年より641人増）、C日程入試には3784人（昨年度より653人増）、センター利用入試（後期）には1491人（昨年度より60人増）が志願した。

平成27年度の本学総志願者数は5万2600人（昨年度より8921人増）で、過去最多を記録するとともに、7年連続

有田 周平君



有田君

26年度県内大学 卒論発表会

3組4人が優秀賞

（電気電子情報工学科 4年・今野将研究室）
「長期的な製品評価の変化予測に関する研究」
インタラクティブ（対話型・双方向型）製品はユーザーに長期使用され、ユーザーは製品を理解するとともに製品評価を形成するという特徴を持つ。ユーザー体験の高い製品づくりのために、実利環境での製品評価の分析が不可欠だ。



長内君



浅倉君

（電気電子情報工学科 4年・飯田一博研究室）
「妨害音の到来方向が作

（電気電子情報工学科 4年・飯田一博研究室）
「妨害音の到来方向が作

浅倉 政隆君
長内 傑君

（電気電子情報工学科 4年・飯田一博研究室）
「妨害音の到来方向が作

6月に再打ち上げ

長期流星観測「メテオ」カメラ

■ 荒井上席研究員が講演



打ち上げが成功すれば、まず8月に極大活動期を迎えるペルセウス座流星群の観測を行い、津田沼キャンパスにあるPERCの運用管制室に映像を降ろして、YouTubeで公開する計画だ。

＊

荒井上席研究員の講演は、習志野市国際交流協会（崎山征雄会長）の文化講演会で明らかにした。写真。観測に使われる超高感度ハイビジョンカメラは3月6日に米国に向け送り出され、6月13日に

発したロケットに、千葉工大の流星観測カメラが積まれていたことを報道で知った会員や市民から、「ぜひ詳しい話を聞きたい」という要望が寄せられたため、崎山会長から瀬戸熊理事長にお願いしました」（斉藤富男・同協会事務局長）

2号館3階の大教室をほぼ埋め尽くした聴衆を前に、荒井上席研究員はPERCの研究活動から説き起こし、小惑星探査機「はやぶさ」初号機や、

昨年12月に打ち上げられた「はやぶさ2」にも触れながら、「メテオ」プロジェクトが世界で初めて宇宙から流星を長期連続観測する意欲的な挑戦であることをアピール。講演後には「流星群は彗星からの塵が多いのか、それとも小天体からか？」「地球に衝突する恐れのある小天体の観測態勢は？」などの質問にも、「流星群のほとんどは彗星からの塵です」「地球に接近する小天体

の観測は、世界的なネットワークで行われていて、さまざまな丁寧な答えが返ってくる。また、宮本泰介・習志野市長も会場に姿を見せ、「千葉工大は工学分野で全国的に有名だが、惑星探査でも実績を積み上げて有名になっていく」とあいさつ。「惑星探査の千葉工大」が急速に浸透していることを印象付けた。

先輩5人が体験談

■ 教員採用試験対策講座開く

教員採用試験に向けた対策講座（教職課程運営委員会主催）が2月7日、津田沼校舎6号館で開かれた。公立校採用試験に合格したばかりで今春、教諭として着任予定の3人（卒業生・院生含

む）と、すでに教育現場で活躍中の本学卒の教員2人の計5人が、採用までの取り組みや、準備の仕方などを真剣に語った。写真。

会場には1年生から3年生まで約40人が集まり、先輩の体験談を聞いて、活発に質問した。その後、軽食を囲み懇親会の席でも、試験や教育現場での話が続いた。

「3級講座」は1回のガイダンスと180分（2コマ）の講義6回で構成されており、受講料は大学負担（受験費用は個人負担）。国家資格の取得は自らのスキルアップにつながり、就職活動にも役立つ。

就職・進路支援部は「意欲のある学生諸君は奮って講座を受講し、受験してほしい」と呼びかけている。

本学では学科により、数学科・理科学・情報・工業・商業の各教員免許状を取得できる。変革期にある学校現場に、千葉工大卒でバイタリティあふれる教員が増えていくことが期待されている。

建学の精神「世界文化に技術で貢献する」

6回目！全国1位

知財検定3級 本学の合格者数

昨年11月に行われた国家試験「知的財産管理技能検定」3級で本学は26人の合格者を出し、全国1位に輝いた。

7月、11月の年3回行われる。本学は就職・進路支援部が主導して、7月と11月の試験の前に約2カ月間の「知的財産管理技能検定3級講座」を開催。外部の専門家を講師として、手厚い受験指導を行っている。この結果、昨年は7月の検定試験でも

34人が合格し、全国1位となった。ちなみに常連受験校には早稲田、中央、明治、日大、国学院、金沢工大、大阪工大などが名を連ねている。その中で本学の知的財産教育は高い評価を受けており、昨年1月には「知的財産管理技能士会」から大学として初

めでの表彰を受けた。

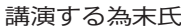
「3級講座」は1回のガイダンスと180分（2コマ）の講義6回で構成されており、受講料は大学負担（受験費用は個人負担）。国家資格の取得は自らのスキルアップにつながり、就職活動にも役立つ。

就職・進路支援部は「意欲のある学生諸君は奮って講座を受講し、受験してほしい」と呼びかけている。



本学では学科により、数学科・理科学・情報・工業・商業の各教員免許状を取得できる。変革期にある学校現場に、千葉工大卒でバイタリティあふれる教員が増えていくことが期待されている。

R&DPM研究会 為末氏ら招いて第2回シンポ



京スカイツリータウンキャンパスで開催。産業界や大学、官公庁などから約70人が参加した。

今回は「価値創造をたらしめる研究開発（R&D）プロジェクトマネジメント（PM）」をテーマに、1年間の成果を報告し、今後の活動の方向性を議論した。

第1セッションでは、400名ハードルの日本

この研究
会は2012年6月に
「ものづくりR&DPM
研究会」として発足。研
究開発にPM技法を適用
することで、革新的な製
品やサービスを次々と産
出する。記録保持者で、2度の世
界選手権銅メダルに輝い
た為末大氏が「アスリー
ト能力開発とプロジェク
トマネジメント」と題し
て講演。「走る哲学」と
も称された為末氏は、そ

産官学がグループ報告・討議

保教授がコーディネーターを務め、パネリストは中田教授▽横森清氏（JST）▽下村道夫教授（本学PM学科）▽内平直志教授（北陸先端科学技術大学院大）▽山崎晃教授（本学金融・経営リスク科学科）の6人。

点で、R&DPMをいかに価値創造に結び付けるか、その思いをショートプレゼンに込めて発表した。

らにオープン化され、R
& DPMの知識体系づく
りを着実に推し進めてい
く計画だ。

千秋上席研究員 地域の縁 墨田区で

惑星探査研究センター（PERC）の千秋博紀（2月14日、名づけて1年間に2回程度開かれているこの講演会は、墨田区から委託を

「はやぶさ2」。地球への帰還は2020年の年末の予定だ。

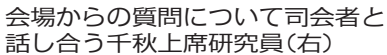
らの質問に
う千秋上席

東京都墨田区にすみた生
涯学習センター（ユート
リヤ）で開かれた天文学
ファンの集まりで「はや
ぶさ2のすべて」を熱く
語った。この講演会は、
東京スカイツリータウン
に招いたこともある。

千秋上席研究員は、2
003年に小惑星「イト
カワ」に向けて打ち上げ
られ、2010年にサン
プルリターンを成し遂げ
た「はやぶさ」初号機の
話から説き起こし、「は



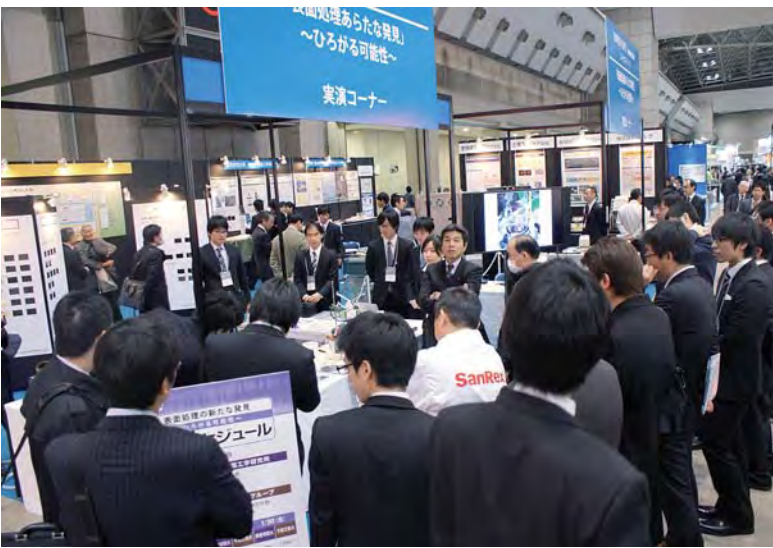
会場な
話し合



（眞空メッキ）実演——などを協力会社と出張した。

また、千葉工大ブラスとして、坂本教授のほか機械サイエンス学科の井上泰志教授、電気電子情報工学科の小田昭紀教授がエレクトロクロミック材料やダイヤモンドライクカーボン成膜用プラズマ、硬質炭素系材料の合成に関する研究などを展示した。

サテックは、国際ナノテクノロジー総合展など13の展示会と同時開催され、特別講演やセミナー



サーテック2015開く

部材の展示▽院生らによるイオンプレーティング（真空メッキ）実演——などを協力会社と出展した。

また、千葉工大ブースとして、坂本教授のほか

機械サイエンス学科の井上泰志教授、電気電子情

報工学科の小田昭紀教授
がエレクトロクロミック

材料やダイヤモンド
クーパーン成膜用プラズマ

マ、硬質炭素系材料の合

示した。

ノテクノロジー総合展な

され、特別講演やセミナー

ツチングの場を提供。毎

いる。

教員 (6人)



学生の皆さんへ
創造は想像より始まる
本を読もう

いつも笑顔。授業に手を抜かず、丁寧な対応で学生のやる気を引き出した。諦めず研究に取り組む姿勢に信頼が。

梅村 茂 (機械サイエンス学科・教授)



楠 学問を目指すため
大学院へ進もう

親しみやすい人柄。個性的な教員ぞろいの旧精密機械工学科の中、物静かでの確かなアドバイスに、みんなが安心。

武石 洋征 (機械サイエンス学科・教授)

定年退職者の皆さん

3月に定年を迎えられる教職員の皆さんを紹介します。いろいろな思い出、学生へのエールなど、温かい言葉を残して下さいました。
(敬称略)

(6面へ続く)

アイデアで生活を豊かに

デザイン科学科 卒展・学外展ひらく



津田沼校舎 7 号館での卒業研究・制作展



デザイン科学科で学んだ集大成を見せる「卒業研究・制作展」(展示委員リーダー・安藤碧さん) 橋本都子研究室、DM 広報リーダー・長嶋唯さん、長尾徹研究室、同大貫陽平さん、上野義雪研究室、いずれも同科

作品を楽しみにしていた市民たちが、成果を見て回った。
広報リーダー・長嶋さんは「実りある4年間をキーワードに、ポスターで16研究室の実りを表現しました。学生全員が1年をかけて取り組んできた作品や研究成果を、十分に披露できたと思います。平日なのに多くの方々が見学に来て下さり、感謝しています」と語った。

三つの「びりっ!」

秋葉原では学外展

2月14、15日には、研

鑽の成果を広く一般の人々にも公開し「千葉工大」への認識を深めてもらおうと、秋葉原UDXギャラリーで「デザイン科学科活動報告展(学外展)」が開かれた。卒業制作の中から選りすぐ

れた38作品のほか、演習授業と産学協同プロジェクトの成果が展示された。
秋葉原UDXでは昨年に続き2回目。今年のコンセプトは三つの「びりっ!」。一般の人のデザインに対してのイメージを破り、自分の頭の中だけの世界から飛び出し、自分の殻を破って新しい

① 夢とアイデアいっぱいの作品が並んだ活動報告展(学外展)＝秋葉原UDXギャラリーで



世界で成長して姿を象徴するということ意味が込められている。
このコンセプトづくりを含めて会場設営を行ったのは1〜3年生の有志スタッフ35人。作業は昨年11月にスタート。《びりっ!》のコンセプトを情報、プロダクト、インテリアの3コー

スに合わせて表現するグ
ラフィックイメージも全スタッフのコンペで決めた。
秀作がそろった会場では、「こういう発想は学生ならですね」「これは私のところでも使えるか

な!」などのデザイン関係者の感想や、制作した学生に熱心に質問する来場者の姿も見られた。
学外展の指導と運営に当たった倉斗綾子助教は「卒業研究から学内展、学外展と進んでくるに従って、作品のレベルが見違えるようになってきます。やはり学生にとって、第三者に見てもらうことは大きな刺激になりますから」と話していた。

大震災復興へ花いっぱい IN 習志野台、

今年も森教授と学生たち



東日本大震災復興支援「第4回花いっぱいIN習志野台」(ともにがんばろう東日本)実行委員主催、本学と旭市、船橋PTA連合会が協力)は3月8日の日曜日、船橋市習志野台の北習志野近隣公園で開かれた。今年も本学から金融・経営リスク科学科の森雅俊教授を中心に学生25人が集まり、準備や運営、後片付けに協力した。

会場の公園に集まったボランティアの学生たち。前列中央が森教授

(5面から続く)



ありがとうございました。
感謝！

おおらかで穏やか……安心感漂う人柄。寮生の信頼も厚く、最終年は寮生のいない千種寮での警備に尽力した。

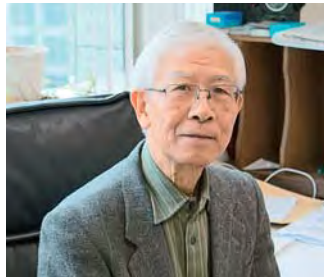
廣沢 明 (総務課・警備員)



魔法のことば～!!
“ありがとう。”

心の奥に届く優しさが学生たちに不思議な力をくれる。悩みがあっても、ポンッと押してくれる手は魔法のよう。

矢島 久子 (津田沼学生課・課長補佐)



興味を持つことは仕事の始まりです。目標に向かって進みましょう。

学生実験室の設備維持管理などに尽力、授業では親切丁寧な指導で学生たち個々の能力を伸ばし、慕われていた。

林 喬久 (電気電子情報工学科・准教授)



若い後輩達へ。スタートラインは一緒、チョットした努力と勇気で差がつく。企業は協調性も重要で“技術者は現場の信頼と協力が得られれば勝。

並々ならぬ熱意と信念。妥協を許さない姿から多くのことを学んだ。ぶっきらぼうな言葉に“愛、がたくさん。

山下 智司 (機械サイエンス学科・教授)



最高の環境で上司、同僚に恵まれた12年間、充実した勤務ができました。千葉工大のますますの発展を祈ります。

優しい笑顔ののっぴの警備員さん。さりげないあいさつが心地いい！ 寮生も加わりにぎやかな新習志野を警備。

後藤 芳喜 (新習志野学生課・警備員)



ゆるゆると歩みて
花種をまく

おっとり、ほんわか。誰もが安心できる癒し系キャラ。年配教員にも親しみやすく頼りになると信頼されていた。

佐藤千枝子 (学務課・係長)



今やるべきことを「後で」は禁句です。今やるべきことは今です。

対人ではダイナミック、学問的に繊細緻密。化学工学の実験棟で学生と一緒に汗を流し指導していた姿が印象的。

今村 易弘 (生命環境科学科・准教授)



耐力強化

半世紀余を本学で！ 教育、研究、運営と真摯に取り組む、数々の委員も務めあげたパワーは年を感じさせない。

西林 賢武 (教育センター・教授)



たくさんの思い出、ありがとうございました。

飯岡研修センター、御宿研修センターと、学生たちに快適な施設管理に務めた。若者に囲まれ若々しさに磨きが。

三浦 正子 (津田沼学生課・管理人)



津田沼校舎で11年間、お世話になりました。感謝申し上げます。

いかつい体型とは裏腹に、いつもニコニコ、優しくユーモアたっぷり。体育会系父親！と職員から慕われていた。

川浪 利文 (総務課・警備員)



「和」

物静かで温厚、インテリ系素敵オジサマ。永く図書館業務を学生目線で進めてきた。写真部ではプロ並みの腕前。

田口眞一郎 (総務部付・事務職員)



大学の節目節目での広報活動が一番の思い出です。皆様方のこれまでのご協力に感謝いたします。

広報畑一筋。特に鯨生体観測衛星(観太くん)打ち上げで「ついにやった」と目頭を熱くした姿が昨日のここのよう。

藤井 正温 (法人事務局・事務職員)

職員 (8人)

編集だより



今年度も間もなく終わりを迎える。毎年この時期は、学位記授与式に想いを馳せた内容のコラムで卒業生の思い出に浸り、さみしいながらも面白く思い出し出している。一人、二人、三人……。

思いを抱えた「春」を迎えていることと思う。4年前、入学を間近に控えていた2011年3月11日、東日本大震災が発生し、本学では創立以来初めて入学式を中止。入学生の中には災害に合われた方も多く、当時、何も出来ない自分を悔やみ、毎日、やらねばならない仕事(大学でも家庭でも)を一生懸命し

入試広報課 大橋 慶子

四季雑感

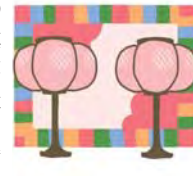


卒論・修論も無事に終わり、研究室は2月までの喧騒が嘘のように静かになっていきます。4月になれば新4年生の卒論がスタートし再び騒がしくなるので、僅か1ヶ月しかないこの静けさを楽しみたいところです。とはいえ、私自身は学会や

卒論・修論も無事に終わり、研究室は2月までの喧騒が嘘のように静かになっていきます。4月になれば新4年生の卒論がスタートし再び騒がしくなるので、僅か1ヶ月しかないこの静けさを楽しみたいところです。とはいえ、私自身は学会や

卒論・修論も無事に終わり、研究室は2月までの喧騒が嘘のように静かになっていきます。4月になれば新4年生の卒論がスタートし再び騒がしくなるので、僅か1ヶ月しかないこの静けさを楽しみたいところです。とはいえ、私自身は学会や

同窓会



平成26年度を振り返ってみると、例年以上に様々な経験や出会いの多かった1年でした。縁あって、同窓会の評議員を務めることになり、同窓会の総会に出席をしたことから始まり、10月には九州ブロック佐賀県大会にも参加をさせて頂きました。初めて同

窓会のブロック大会に参加をし、多くの先輩方と懇親会などを通じて、本学の歴史やそのころの生活を聞くことが出来ました。世代を超えた先輩方と出会えたことは私の財産となりました。また、今年度からグアム大学で開催された、夏期英語研修の引率？として1カ月間、学生約40人と共に英語漬けの研修を受けました。他国の異文化に触れ、英語が話せず身振り手振りのコミュニ

ケーション、他では味わうことのできない事ばかりで良い経験になりました。そして、1月半ばから2月半ばまでの東京スカイツリータウンキャンパスへの出向では、普段とは違う業務を体験できたことは、とても良い経験になりました。今後も良い出会いと良い経験ができるように精進していきたいと思います。

学生センター新習志野 教務課 高沼 憲昭